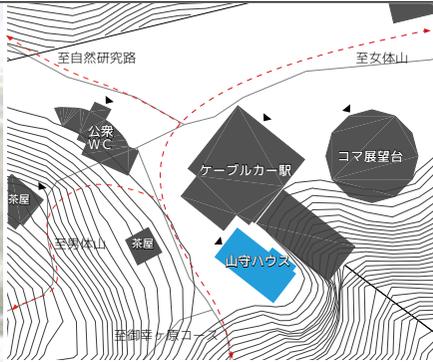
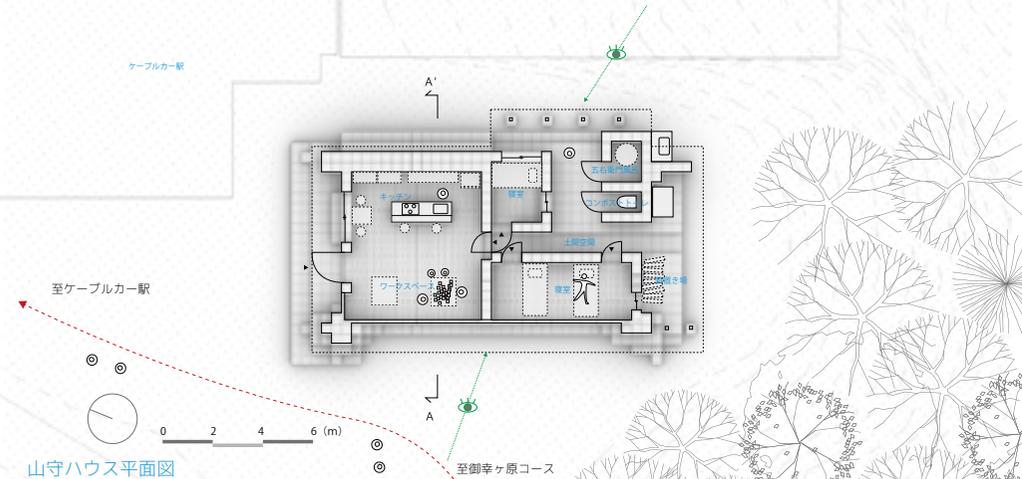


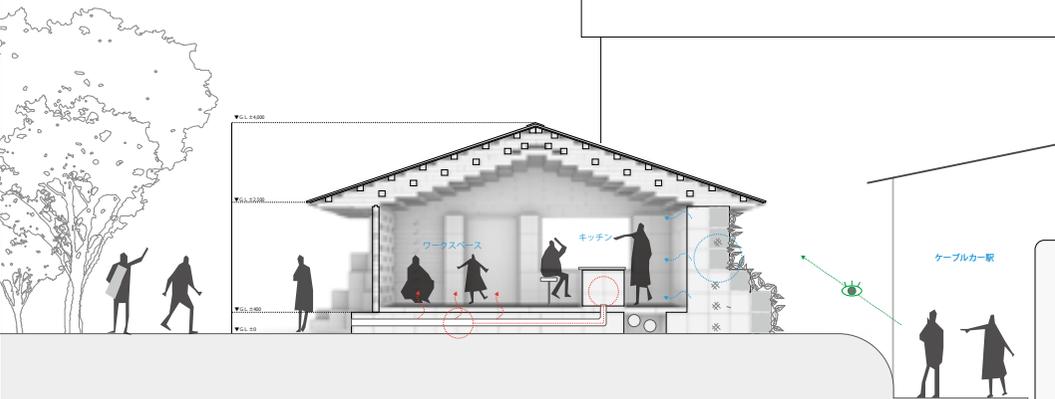
1期：居住WS拠点 「山守ハウス」



既存の廃墟を解体した跡地に計画した山小屋の整備事例。ここでは長期滞在しながら開発に参加する人のための居住施設兼登山者の避難休憩小屋。主構造は蛇籠で造られている。蛇籠の表面積の多さによる蓄熱・蓄冷効果が山場での室内環境を整えることができる。また、キッチンの熱を蛇籠に通すことによって蓄熱させる他、北側の人口軽土壌と植物を装填した蛇籠が環境装置となり室内を保温することができる。

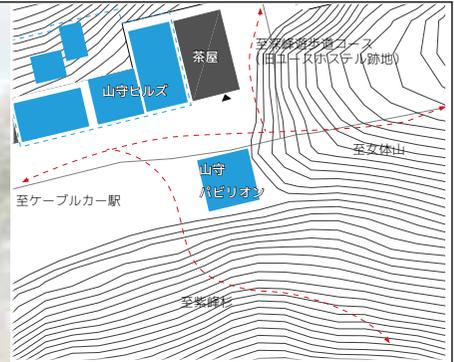


山守ハウス平面図

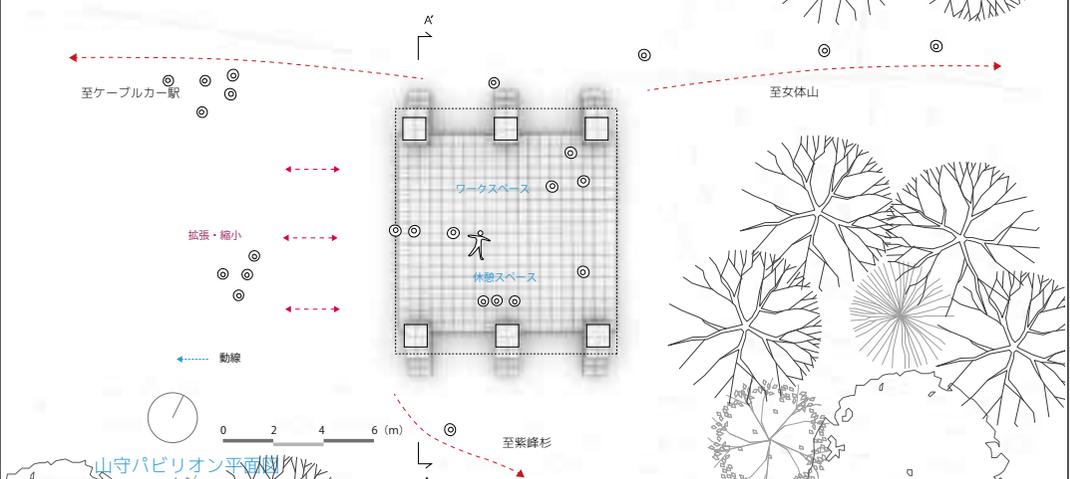


山守ハウス A-A' 断面図

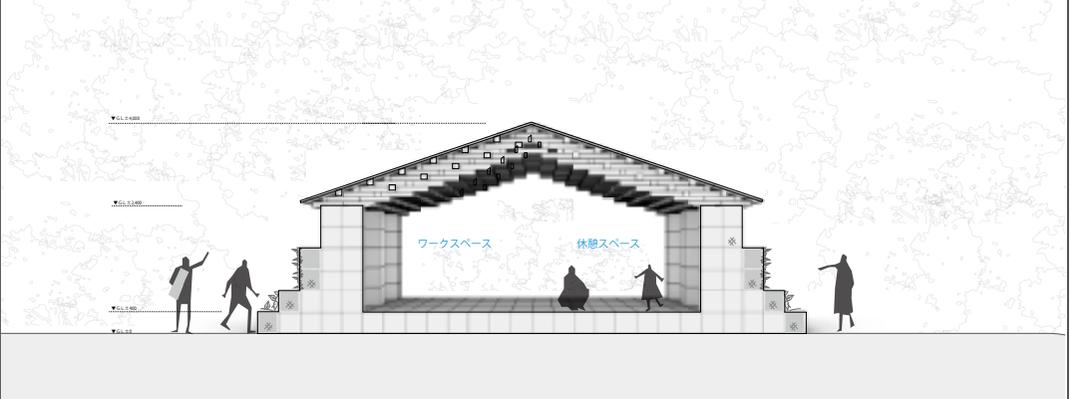
2期：加工拠点兼集合場所 「山守パビリオン」



筑波ロッジ跡地の砂利敷きに、登山や観光客が休憩や集合場所にする東屋を設計した。ここでは山守開発の加工拠点としても使われ、具体的には施工手順などの説明・解説教室を開催したり、実演する場所として用いられる。御幸ヶ原のメイン動線から近いことから、山守開発の活動風景が通る人々の目に映る。現在は最低限の大きさだが、観光客数の変動に合わせて西側に向かって休憩スペースの拡張をする。

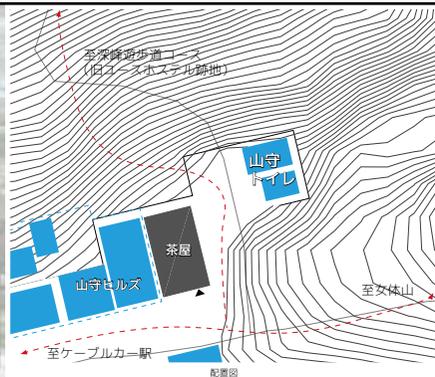


山守パビリオン平面図

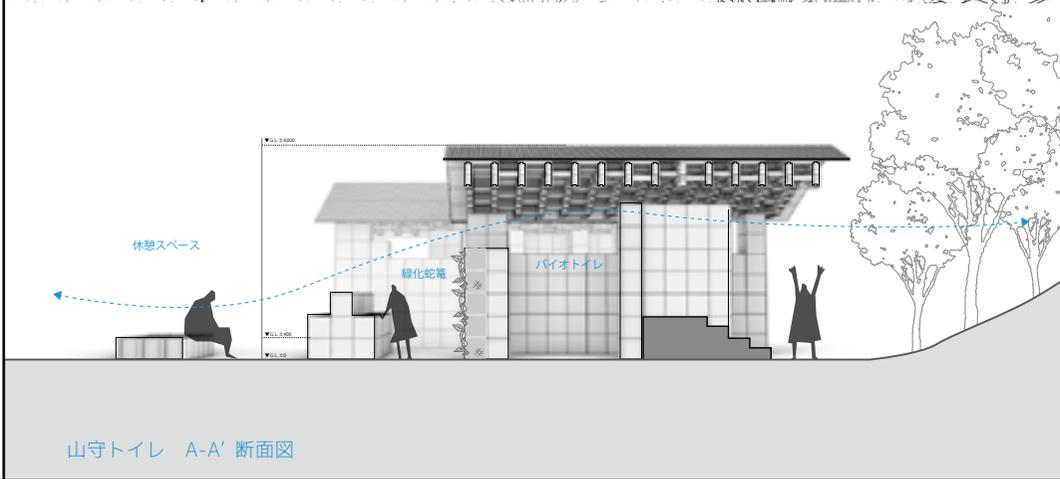
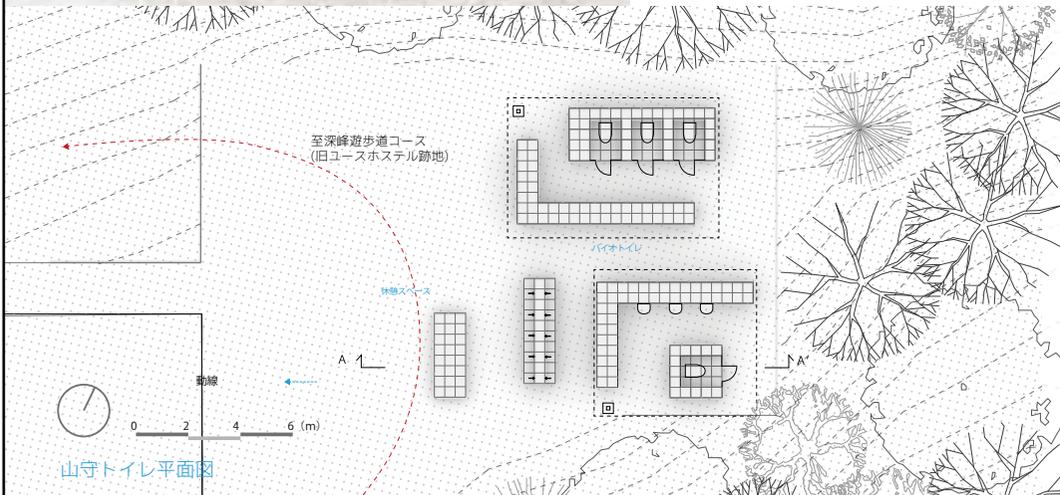


山守パビリオン A-A' 断面図

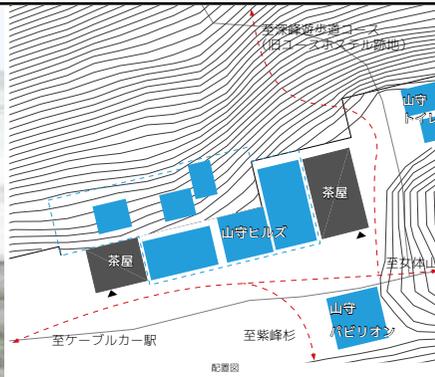
3期：バイオマストイレ棟 「山守トイレ」



御幸ヶ原北東に位置する老朽化した公衆トイレを、環境に配慮したバイオマストイレに更新・新築する計画である。通気をよくするためにL字壁で緩やかにかみこみ、ファサードは緑化蛇籠を用いて自然と調和するようにデザインされている。トイレ前には水場と休憩所も設けた。排泄物は乾燥し堆肥化させることで脱臭し、後に蛇籠に装填して緑化蛇籠の材料にリユースする。



4期：展望拠点 「山守ヒルズ」



御幸ヶ原北側側商店テラス跡地の擁壁沿いに展望拠点を再計画した。既存商店を期間契約制のレンタル・シェアキッチンに建て替えている。商店沿いの新設建物は既存商店の屋根が形成するスカイラインを踏襲しながらも大きく北側に抜ける動線を設けた。北側の雄大な景色を借景に、蛇籠を用いてランドスケープ的に人の居場所を作りながら、斜面を近似的に修復している。ここでは山の上での様々な活動や居方を許容する。

